

「茶釜の湯温泉」と命名

社会福祉法人「筑西会」で掘削工事を行ってきた温泉は、10月に深さ1500メートルに達して工事を終了。温泉は、温泉掘削地のすぐ近くを東西に通っていた旧街道の名に由来して、「茶釜の湯温泉」と命名されました。

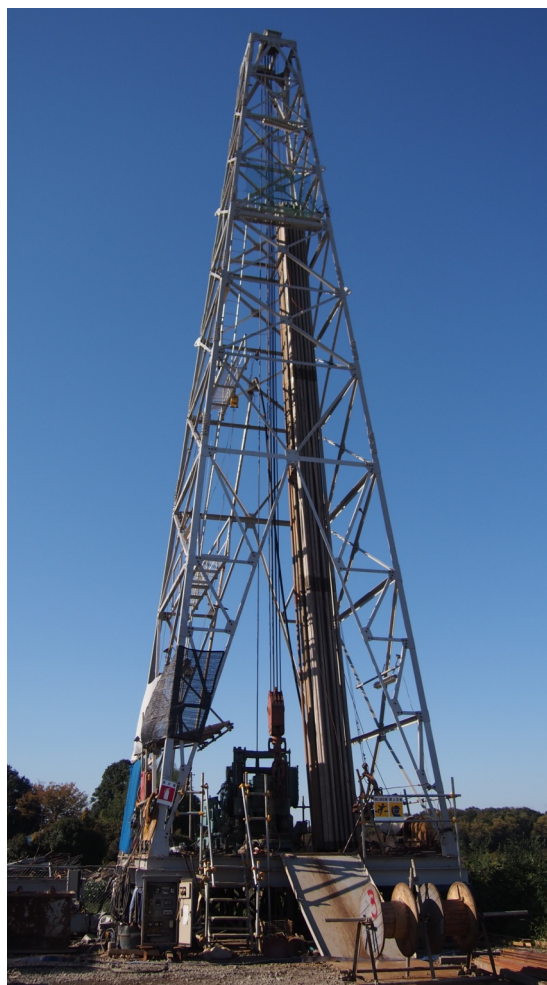
源泉は、泉温が40℃～43℃で、湧出量が毎分112.9リットル。温泉分析の結果、泉質はナトリウム塩化物温泉で、低張性弱アルカリ温泉です。ナトリウム塩化物温泉は一般的に、「熱の湯」として湯冷めしにくい温泉で、血液の循環を促進し、殺菌効果があるとされています。低張性弱アルカリ温泉は、体に優しい温泉で、美肌効果があるとされています。

温泉分析書によると、関節リウマチや五十肩、腰痛などの慢性的な筋肉や関節の痛みや強張り、運動麻痺による筋肉の強張り、疲労回復、健康増進、切り傷、末梢循環障害、冷え性、うつ状態、皮膚乾燥症などに適応しています。

温泉の掘削は平成26年7月23日に開始、10月17日に目標の深さ1500メートルに達し、約3カ月間で掘削工事を無事終了し、結城市内で初めての温泉として掘削に成功しました。来年2月には、保健所の審査を通して水中ポンプを設置。平成27年度には温泉療法施設として、特別養護老人ホーム「ヒューマン・ハウス」の通所サービスと介護老人保健施設「すばる」の通所リハビリテーション施設を増床、温泉療法による約100床規模の通所リハビリ施設が完成する予定です。

平成26年11月29日

体に優しく、湯冷めしにくい泉質



掘削に使われたやぐらは、現在は撤去されている



地下1500メートルの源泉が汲み出されるパイプ



汲み出される源泉



掘削が行われたドリル



温度を肌で感じる関係者

ナトリウム塩化物温泉、弱アルカリ性温泉